

村尾次郎 （1894-1975） 國史學者、文學博士。大正二年九月（二十日）靜岡縣生れ（一九四一）。筆名虎童子、V。昭和十五年東京帝國大學文學部國史學科卒。富士短期大學教授等歴任後、二十一年文部省初等中學教育局教科書課調査官となる。のち東京教育大學教授家永二郎の提訴した、所謂「教科書裁判」で文部省側の證人となり、檢定の合憲・合法性を主張。五十五年辭官。

著書『植武天皇』（昭和二十八年十月）二十五日吉川弘文館「人物叢書」）、『よみがえる日本の心―維新の軌跡』（昭和四十二年一月）日日本教文社）、『氣骨の彫刻』（昭和四十四年五月十五日富士短期大學出版部）、『教科書調査官の発言』（昭和四十四年六月二十日原書房）、『逆巻く大正―戦後体制の原型』（昭和五十一年一月五日日本教文社）、『神の森と人間』（昭和五十二年十一月二十五日京都・PHP発行所）、『眞景明治憲法制定史話』（昭和六十一年四月二十日明治神宮・明治神宮學堂敬会）、『新編日本史のすべし―新しい日本の歴史教科書の創造へ』（合著・監修、昭和六十二年六月十五日原書房）、『土風吟醸』（平成六年一月）二十日錦正社「伝統文化叢書」）等。



神の森と人間 村尾次郎

村尾次郎 神の森と人間

無信仰といわれる日本人の“心のよりどころ”とは何か？

古事記、萬葉集を継ぎつぎ、日本人の信仰の原点を探り、今なお実践されている魂の系譜をつたえ、維新の多岐化に描きだす現代に問う。

PHP